

神経芽細胞腫97例の検討

(分担研究：マス・スクリーニングシステムの情報収集・利用に関する研究)

西平 浩一、西 寿治、角田 昭夫

《要約》マススクリーニング(MS)で発見された神経芽細胞腫56例と、同じ期間に治療した非MS神経芽腫41例の臨床的相違点につき比較検討した。

《見出し用語》MS 発見神経芽細胞腫・非MS 発見神経芽細胞腫

《研究方法と結果》神奈川県立こども医療センターで1985～1993年間に治療した神経芽細胞腫97例を、MS 発見56例と、非MS 発見41例(MS 受検前5、MS 未受検または不明22、MS 陰性14例)に分け、年齢・性別、病期分類、治療方法、予後等につき、比較検討した。

(1) 年齢・性別：MS 発見群は全員1歳以下、男性27、女性29、これに対し非MS 群は41例中34例が1歳以上、男性20、女性21であった。

(2) 病期：MS 群56例中進行例はⅢ期の14例とⅥ-B期の1例で、合計しても15例(27%)である。これに対し非MS 群ではⅣ-A・B期が23例(56%)もあり、Ⅲ期6例と合わせると全体の(71%)を占める(図1)。

神奈川県立こども医療センター

(3) 治療：MS 群の初回完全摘出は44例(78%)である。なお最近では病期Ⅰ・Ⅱ期に対しては、化学療法も放射線療法も行っていない。非MS 群のⅠ期は手術のみ、Ⅱ期は手術+James 療法、Ⅲ・Ⅳ期には厚生省班研究プロトコールで治療した。

(4) 治療結果：97例中13例が死亡し、全体の生存率は(86%)であるが、MS 群56例は全部治癒し、死亡13例は全部非MS 群であり、後者の生存率は(68%)であった(表1)。

《考察》MS で発見された神経芽細胞腫は早期例が多く、手術以外の治療を行わなくとも予後は良好である。最近われわれはこの群のⅠ・Ⅱ期には化学療法・放射線療法を行っていない(表2)。²⁾

一方非MS 神経芽細胞腫の特徴は、MS 群に比べて進行例が多く、さらにがん遺伝子や組織型等の予

後不良因子をもつ者が多く、最近の進歩した治療によっても救命できないものもある。

われわれのシリーズに関する限り、MSによる神経芽細胞腫進行例減少の傾向は見られていない。しかしMS発見のⅢ期の中には、腫瘍原発部位が正中部にあったり、腫瘍がかなり大きかった例もあり、MSによる発見→早期治療が予後改善に寄与していると考えられる。このような例で腫瘍摘出が困難な場合は、化学療法とともに放射線療法も考慮している。

文献

- 1) 西平浩一、豊田恭徳他：マススクリーニング開

始以後の神経芽腫57例の検討. 神経芽腫・厚生省がん研究報告書(平成元年・2年度)、P212~223、1991.

2) 小田孝憲、西平浩一他：スクリーニング以外で診断された進行神経芽腫の検討. 日本小児科学会雑誌96：1,040~1,045、1992.

3) 佐々木佳郎、西平浩一他：神経芽腫マススクリーニング例の形態学的特徴. 蛋白・核酸・酵素38：141~147、1993.

4) 西平浩一、西寿治他：マススクリーニングで発見された神経芽細胞腫の治療方法の検討. 日本マススクリーニング学会雑誌2：98~99、1992.

表1 神経芽腫97例の粗生存率

病 期	粗 生 存 率 (%)	
	MS例*+非MS例*	非MS例のみ
I	100% (15/15)	100% (6/6)
II	100% (37/37)	100% (5/5)
III	95% (19/20)	83% (5/6)
IV S	100% (1/1)	100% (1/1)
IV A, B	50% (12/24)	49% (11/23)
I + II + III + IV S	99% (72/73)	94% (17/18)
総 計	86% (84/97)	68% (28/41)

* MS : mass screening 発見例

* 非MS : mass screening 以外での診断例

表2 スクリーニング発見神経芽腫の治療方法の変遷
(神奈川県立こども医療センター)

	'85~'87	'88~'89/10	'89/11~'92/4	'92/5~
病期 I	J	J/2	—	—
II	J + Rx	J	J/2	—
III	A ₁ + Rx	A ₁ /2	A ₁ /2	A ₁ /2
IV	A ₁ + Rx	A ₁ /2	A ₁ /2	A ₁ /2

* J : James 療法20週間、J/2 : James 療法10週間、

Rx : Irradiation 20 Gy

A₁ : A₁プロトコール変法 (CDDPをCarboplatinに変更)、

A₁/2 : A₁ half dose





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



《要約》マスキング(MS)で発見された神経芽細胞腫 56 例と、同じ期間に治療した非 MS 神経芽腫 41 例の臨床的相違点につき比較検討した。